

白石区の北海道がんセンター(加藤秀則院長・520床)は「がんと闘う医療フェスタ」を開いた。患者や家族、地域住民らが多数参加し、検診や最新の治療などを学び、がん予防に対する意識を高めた。

手術室や内視鏡室を回る院内見学ツアーでは、ダウインチ、リニアックなど最新の医療機器に関心が集まった。スタッフは病院で行う低侵襲な内視鏡手術や、放射線治療をPR。「腸内環境を整えよう」をテーマに管理栄養士が栄養相談を行ったほか、実際の病院食やおやつを提供した。参加者は、がん治療を学ぶコーナーで看護師が患者に行う手指の保湿やネイルケアなど、細かなアピランスケアを体験。

ステージイベントのミニ講演会では、原林透高度先進内視鏡外科センター長が、ダウインチでのがん治療を解説した。参加者は、イベントを通じてがん治療を身近に感じられた」と話していた。

ステージイベントのミニ講演会では、原林透高度先進内視鏡外科センター長が、ダウインチでのがん治療を解説した。参加者は、イベントを通じてがん治療を身近に感じられた」と話していた。

北海道がんセンターがフェスタ 地域へ最新医療を発信



肺年齢測定や頸動脈エコーなど無料検診に多くの地域住民が集まった